岡山理科大学 獣医学部 獣医保健看護学科

News Letter Vol. 3

このニュースレターでは学生達の活躍、講義や実習の様子、学科の取り組み、動物豆知識などを紹介します。獣医保健看護学科に興味を持ってくれた高校生の皆さんとのコミュニケーションツールになればと思っています。

3年生になると動物病院、公的機関、企業、動物園、牧場などの実習先で「獣 医看護実務実習」を行います。2期生の夏休みの"実習体験記"を紹介します。

実習先: 畜産研究センター 野中麗

夏休みに、野村町にある愛媛県農林水産研究所畜産研究センターで実習を行いました。私は家畜の生産やブランド畜産物の振興に興味があり、実習先として畜産研究センターを希望しました。実際の現場では、豚の人工授精や食肉用子牛のセリなどの見学に加え、乳牛の搾乳や、豚舎の清掃、TMR(混合飼料)の作製など、実際の業務の手伝いをさせていただきました。また、愛媛県のブランド畜産物である「あかね和牛」の開発過程や今後の目標などの講義もしていただき、職員の方のこだわりや苦労を知ることができ、非常に勉強になりました。

私は将来畜産に携わる職に就きたいと考えているので、今回の畜産研究 センターでの貴重な経験を今後の進路の参考にしたいです。



実習先:動物病院 岡山美里

今治市と地元(山口)の2か所の動物病院で 実習を行いました。実際の現場の雰囲気を知り、大学での学びがどのように活かされるかを 知りたいと思い、実習先に動物病院を選びました。実習中は保定、受付業務、検査、手術りりたいとでする機会もありました。最も印象に残っているのは保定でするといできました。獣医師の処とは、当なかなかと手くいきませんでしたが、これなかなかと手くいきませんでしたが、そのをというよりました。

実習を通して、自ら積極的に行動しなければ



ならない場面が多いと感じました。そのためには、大学で学んだことをしっかりを習し、自分にできるした。 で学んだことをしったできるとを1つずつ確実に増やるとが重要であるとができるとができるとができるとがました。

実習先: 今治市役所 佐々野貴経

私は今治市役所で実習を行いました。市役所では、希望した「農林振興課」に配属産産した。「農林振興課」は当まり、高獣被害に関する業務を担当してある箱切りの業務の一環としてあるったである地域してある地域していただきました。農産物をせていただきまなが、の他にも、他部署との対応なおもいの地にも、他部署との対応な知期間でという短いの職員がという短いが、市役所の職員が近い市役所の職員方々の姿勢と心は、公務員系の職種の中で、市民の姿勢とが、公職が近い市役所の職員方々の姿勢と心は、公職が近い市役所の職員方々の姿勢と心は、公職が近い市役所の職員方々の姿勢と心は、公職が近い市役所の職員方々の姿勢と心は、公職が近い市役所の職員方々の姿勢と心は、公職が近い方々の姿勢といる。



実習先: 酪農場 古川 晴那

今治市にある酪農場で実習を行いました。卒業研究の対象に乳牛を考えていたことと、就職先に畜産系の公務員を希望しているため、実習先として選びました。実習では主に、餌づくりや給餌、搾乳を行いました。搾乳については、「産業動物看護学」や「家畜繁殖学」の講義で学んでいるだけだと理解しにくいました。実際に搾乳するしたがあると感じていました。実際に搾乳する様でいた部分を具体的にイメージすることができばいできました。また、乳頭を拭っていた部分を具体ができました。また、乳頭を拭っていたがあることができなければ乳房炎になってしまうことを教えていただき、細かな作業への配



慮のひとつひとつが動物 の病気の予防につながる ことを学びました。

この経験を今後の勉強 や就職活動に活かしてい きたいです。

実習先:養殖魚系企業

伯方島にある、主に稚魚の生産をしている養殖魚の企業で実習を行いました。私は漁場に関わる仕事に興味を持っており、特に稚魚の養殖に興味を持っています。実習



石川拓海

では稚魚の餌の管理、稚魚・親魚への給餌、フグの稚魚の歯切り、マダイの稚魚のワクチン接種で行いました。フグの歯は硬くお互いを噛むために歯切りを行います。人や牧打つを打いな生や豚などの動物にワクチンを打つとを打いと思います。人の大きな中でいますが、魚のワクチンを打つと思いますが、魚のサインを打った。魚に関する知識はもちろん、湖とものです。また、身体を動かす作業も多く、ルばいの結び方や船の動かし方など、学ばないことが多くありました。

実習先:動物病院 安藤真葵

松山市にあるエキゾチックアニマルの診察など を行なっている動物病院で実習を行いました。そ こでは、診察や手術の見学、分包機や全自動血球 計数器といった機器の操作、処置を行う際の保定 などを行いました。実習中は初めて見る機械の操 作や、大学ではなかなか触れ合うことが難しい種 類の動物の保定を、どうすれば上手くできるのか とても悩みました。

今回の実習を通して、動物看護師の実際の業務がどんなものなのかを体験することが出来、どのような診察が行われていて、今、何が必要なのか、飼い主さんとはどのようにコミュニケーションを取れば良いかなど、気配りや予測が必要なことを学びました。

今回の経験を活かして、 自分にとって足りない部分 を補いながら、これからの 大学生活を送っていきたい と考えています。



実習先:養豚場

三輪修馬



地元(愛知)の養豚場で 実習を行いました。1,700 頭の豚を4人で管理してい る家族経営の養豚場でした。2年次に受講した「産 業動物看護学」の授業で産

業動物の飼育環境、栄養管理、防疫について学んだ際、将来的に産業動物分野へ進みたいと考え、実習 先に選びました。

実習では清掃、除糞などさまざまな経験をしましたが、特に印象的だったのは夏季の温度管理です。 豚は分娩後と離乳期の小さい個体を除き、暑さに弱い特徴があり、夏季は生産効率が落ちやすくなります。生産効率を維持するために、舎内に大型送風機を複数設置し、特にデリケートな母豚に対しては首の後ろに自動で水を滴下していました。夏場の温度管理の必要性や温度管理のための設備・取り組みと同時に、養豚業において生産効率を維持することの難しさを、実習を通して学ぶことができました。

発行元 岡山理科大学 獣医学部 獣医保健看護学科

お問い合わせ先

〒794-8555 愛媛県今治市いこいの丘1-3 TEL(代表): 0898-52-9000

